

韓国語濟州方言の自然発話の書き起こしテキスト —昔の食べ物—¹

A text of spontaneous speech in the Jeju dialect of Korean: Food of the old days

金 善美

KIM Sunmi

1. はじめに

韓国語の濟州方言は韓国の濟州島（行政区域としては濟州特別自治道）で使われている方言である。音韻体系としては、子音音素には/p, ʔp, p^h, t, ʔt, t^h, s, ʔs, c, ʔc, c^h, k, ʔk, k^h, h, m, n, ŋ, l, j, w/があり、母音音素には/i, e, ε, u, ʌ, a, u, o, ɔ/がある²(鄭承喆(2001), Tida et al (2012)も参照)。

本稿は濟州方言の自然発話を書き起こしたテキストが主な内容である。元の自然発話(ファイルJ0038_110821_KimP.M._1)の全長は55分14秒である。その中の18分13秒から24分15秒までの約6分間の連続的な自然発話を対象に、①濟州方言、②濟州方言のYale式ローマ字表記、③日本語のグロス(gloss、逐語訳)、④韓国語標準語訳、⑤日本語の意識を付ける作業を行った。主発話者の金さんは1923年生まれの濟州島出身の女性であり濟州方言を日常的に使用する話者である。対話者のコさんは同じく濟州島出身の1960年生まれの男性であり濟州方言の母語話者である。

本稿のテキストの構成は次の通りである。行に分け、行ごとに通し番号を振り、参照できるようにした。全体としては104の行からなる。ただし、主発話者の発言に重なるようにして入れられた相槌ほか、いくつかの発言については、主たる発話の下にアポストロフィー付の例文番号で提示してあり、書き起こされた発話はもう少し多い。各行は、まず第1行目に濟州方言をハングルで記した。濟州方言のハングル表記は基本的に濟州特別自治道の告示第2014-115

¹ 本研究は、科学研究費補助金（課題番号：21320082）及び科学研究費助成事業（課題番号：25284078）の成果の一部である。

² 音素分析の内容自体は鄭承喆(2001:306)に示されたものと大同小異だが、鄭承喆が二重母音として扱うものの多くについて、その第一要素を子音(いわゆる半母音)とみなし、音素表記はTida et al (2012)で示したのものを使った。子音音素はハングル表記では‘ㅂ, ㅃ, ㅅ, ㅆ, ㅈ, ㅊ, ㅋ, ㆁ, ㄷ, ㅌ, ㄴ, ㄹ’にあたり、母音音素は‘ㅣ, ㅑ, ㅓ, ㅕ, ㅗ, ㅛ, ㅜ, ㅠ, ㅡ, ㅟ, ㅠ’にあたる。また Yale 式ローマ字転写ではそれぞれ p, pp, ph, t, tt, th, s, ss, c, cc, ch, k, kk, kh, h, m, n, ng, l, y, w’ (以上子音)、‘i, ey, ay, u, e, a, wu, o, 転写指定記号なし’ (以上母音) である。濟州方言の音素体系は、次の2点において中部方言（現在の韓国語における標準語の設定基準地域の方言）との間で違いが認められる。その一つは後舌円唇中低音の「ㅛ/ㅜ」が存在すること、もう一つは‘ㅑ, ㅓ’が二重母音([wi], [we])として発音されるということである。鄭承喆(2001:306)、Tida et al (2012)も参照。

号(2014年7月18日付)の「済州語表記法」に従ったが、後述するように実際の音声は復元できよう一部補助記号を補ったところがある。次に第2行目は1行目の済州方言をローマ字表記にした。ローマ字表記は基本的にSamuel E. Marinによる現代韓国語のYale式転写(The Yale Romanization System)に従っているが、何点か変更を加えている。第一に両唇子音の後でもwuを使う。またこのローマ字表記において中低円唇母音は便宜的に「@」を使って記した。「~」は複合語における後続要素の濃音化を表す記号である。「&」は先行要素の末尾の子音が音節初頭にコピーされる、鄭承喆(2001: 307)の言うところの子音の「コピー現象」が起こる位置を示す。「^」は複合語の後続要素の初頭のnが挿入される位置である。また、発話の中には、明らかになんらかの発音がされていながら、舌が滑ったようなものも混じっている。ほとんど無意味と思われるものは中括弧{…}に括って示し、グロスには振らなかった。なお、第2行目は形態素分析に従い境界にハイフンを付してある。第3行目は上段に合わせ、形態素分析を行い、日本語のグロス(逐語訳)を付けた。可読性を重視してグロスの情報の細かさを一部あらくしたところがあるが、名詞につく助詞には主格・目的格・処格助詞を、名詞の修飾語には連体形語尾を、動詞には過去・平叙・疑問・待遇語尾を、なんらかの形で分かるように示した。第4行目は韓国語標準語の知識のある人にとって分かりやすい韓国語標準語訳を付けた。第5行目は、3行目のグロス(逐語訳)よりも意味的に自然な訳である意識(日本語)を付けた。

本稿の内容は、主発話者の金さんがお嫁に行って間もない時代、つまり日本による朝鮮の植民地統治時代の末期の貧しかった時代に、主食として大麦を半分に割って粟を混ぜて食していた体験を語ったものである。話の中には当時の農機具として三人用の臼である「시골방에 (sikolpangey, 시골방에)」が登場するなど、内容的にも当時の生活様式が窺える貴重な証言になっている。以下の第2章からはテキストを見られたい。

2. テキスト「昔の食べ物」(ファイルJ0038_110821_KimP.M._1の18分13秒~24分15秒)

- 1) 録音の日付: 2011年8月21日.
- 2) 録音の場所: 韓国済州島(韓国済州特別自治道)済州市.
- 3) 対話者: 김(金: K, P-M) 1923年生まれ, 済州島出身.

고(コ: K, Y-J) 1960年生まれ, 済州島出身.

- | | | | | |
|--------|-----------|----------|-----------|----------------|
| (1) 고: | 그땐 | 무시 거 | 먹으멍 | 살았수과? |
| | ku-ttay-n | mwusi-ke | mek-umeng | sal-as-swukwa? |
| | その時-は | 何-もの | 食-べ-て | 住-む-[完了]-ますか |

그때는 무엇 먹으면서 살았습니까?

「その時は何を食べて暮らしていましたか。」

(1') 김: 그 때, 「その時、」

(2) 고: 시집 곧 간 때.

sicip k@t ka-n ttay.

嫁 すぐ 行く-[過去.連体] 時

시집 이제 막 갔을 때.

「お嫁に行ったばかりの時。」

(3) 김: 보리쌀 줍쌀.

poli-ss@l co-pss@l.

大麦-米 粟-米

보리쌀 줍쌀.

「大麦、粟。」

(4) 고: 보리쌀 줍쌀, 예?

poli-ss@l co-pss@l, yey?

大麦-米 粟-米 ですね

보리쌀 줍쌀, 말이죠?

「大麦、粟ですね?」

(5) 김: 예, 보리쌀. 아, 이제는 통보리쌀 그냥 먹어도

yey, poli-ss@l. a, icy-nun thong-poli-ss@l kunyang mek-eto

はい 大麦-米 あ 今-は 丸-麦-米 そのまま 食べる-ても

예, 보리쌀. 아, 이제는 통보리쌀 그냥 먹어도

「はい、大麦。あ、今は大麦を丸のまま食べても」

(6) 김: 머 흥는다, 웨 그뻬 굴안만 먹었수과?

me h@-nunti, wey ku-ttay-n k@l-an-man mek-es-swukwa?

何 する-のに なぜ その-時-は 挽く-て. [過去]-だけ 食べる-[完了]-ますか

무엇 하는데 왜 그뎨 갈아서만 먹었습니까
 「なんなのになぜその時は挽いただけで食べたのですか。」

(7) 김: 마래에 영 골안.
 k@lay-ey yeng k@l-an.
 碾き臼-に このように 挽く-て. [過去]
 맷돌에 이렇게 갈아서.
 「碾き臼にこのように挽いて。」

(8) 고: 개역 마씨?
 kayyek massi?
 麦焦がし ですか
 보리미숫가루 말입니까?
 「麦焦がしですか。」

(9) 김: 아니우다게. 그냥 보리쌀을 게난
 ani-wuta-key. kunyang poli-ss@l-ul keynan
 違う-ます-よ ただ 大麦-米-を だから
 아닙니다. (‘게’는 강조) 그냥 보리쌀을 그러니까
 「違いますよ。ただ大麦をだから」
 (9’)고:그냥 골양? 「ただ挽いて?」
 (9’’)고:예예. 「はい。」

(10) 김: 건 나가 알지 못헝켜.
 ke-n na-ka al-ci mos-h@-khye.
 それ-は 私-が 知る-[否定接続] [不可能]-する-[婉曲]. [終結]
 그건 내가 알지 못하겠다.
 「それは私には分からない。」

(11) 김: 웨 거 보리쌀 그러케 못 견디게
 wey ke poli-ss@l kulekhey mos kyenti-key

なぜ あの 大麦-米 そのように [不可能] 我慢する-[副詞化]
 왜 거 보리쌀 그렇게 힘들게
 「なぜあの大麦をそんなに難しく」

(12) 김: 그 보리쌀을 킬안. 먹었는가 ㅎ난,
 ku poli-ss@l-ul k@l-an. mek-es-nunka h@-nan,
 その 大麦-米-を 挽く-て. [過去] 食べる-[完了]-のか いう-と
 그 보리쌀을 갈아서. 먹었는가 하니,
 「その大麦を挽いて食べたのかということ」

(13) 김: 그것도 우리 제주도에는 사람덜이에 하도
 kukes-to wuli ceycwuto-eynun salum-tel-i-yey hato
 それ-も 我が 濟州島-には 人-達-が-ね とても
 그것도 우리 제주도에는 사람들이 말이죠 하도
 「それも我が濟州島には人々がですね、とてもその」

(14) 김: 그냥 옥양 어떻 ㅎ믄 {이} 보리쌀을,
 kunyang y@k-ang etteng h@-mun {i} poli-ss@l-ul,
 ただ 賢い-くて どのように する-すれば 大麦-米-を
 그냥 현명해서 어떻게 하면 보리쌀을,
 「ただ賢くてどのようにすれば大麦を、」

(15) 김: {이} ㅎ 섬이 열~닷 말 아니우파.
 {i} h@n sem-i yel~tas mal ani-wukkwa.
 一つ 俵-が 十五 升 違-う-ますか
 한 섬이 열다섯 말 아닙니까.
 「一俵が十五升じゃありませんか。」

(15') 고: 예예예. (はい。)

(16) 김: 경행 열~닷 말이난 그 열~닷 말을
 kyenghayng yel~tas mal-i-nan ku yel~tas mal-ul

そうして 十五 升-である-なので その 十五 升-を
 그래서 열다섯 말이니까 그 열 다섯말을
 「そうして十五升なのでその十五升を」

(17) 김: 곶아 곶아그벙에, 곶아도 저 꼭르르하게
 k@l-a k@l-a-kuneyngey, k@l-ato ce ph@luluha-key
 挽く-て 挽く-て-して 挽く-ても あの 軽い-[副詞化]
 갈아서 갈아서, 갈아도 저 파르르하게
 「挽いて挽いて、挽いてもあの軽く」

(18) 김: 그냥 예 방에가예 흔 흔 번만
 kunyang yey pangey-ka-yey h@n h@n pen-man
 ただ え 精米所-が-ですね おおよそ 一つ 回-だけ
 그냥 예 방아가 말이죠 대략 한 번만
 「ただ、精米所がですね、おおよそ一回だけ」

(18') 고: 예. (はい。)

(18'') 고: 예예. (はい。)

(19) 김: 영 누리왕, 이젠 또 멩석에 밀류왕
 yeng n@liw-ang, icy-n tto mengsek-ey m@llyu-wang
 このように 下す-して 今度-は また 筵-に 乾かす-して
 이렇게 내려서, 이젠 또 멩석에 말리어서
 「このように下して、今度はまた筵にて乾かして」

(20) 김: 그걸 이제 흔 불만 바르르하게 곶아마씨.
 kuke-l icy h@n pwul-man paluluha-key k@l-a-massi.
 それ-を 今度 一 回-だけ 軽い-[副詞化] 挽く-[終止]-ます
 그걸 이제 한 벌만 바르르하게 갈아요.
 「それをもう一回だけ軽く挽きます。」

(20') 고: 예예. (はい。)

(21) 김: マル로도 안 웨곡 그냥 그 툽 반쪼가리씩
 k@lul-loto an twey-kok kunyang ku ttok pan-ccokali-ssek
 粉-も [否定] なる-て ただ あの ちょうど 半-片-ずつ
 가루도 안 되고 그냥 거 툽 반쪽씩
 「粉ではだめで、ただちょうど半分ずつ」

(22) 김: 쪼개어지게. 기영 글앙 그걸 밥을 흐민
 ccokay-eci-key kiyeng k@l-ang kuke-l pap-ul h@-min
 割る-[自発]-[副詞化] そのように 挽く-て それ-を ご飯-を 炊く-と
 쪼개어지도록. 그렇게 갈아서 그걸 밥-을 하면
 「割るのよ。そのように挽いてそれをご飯を炊くと」

(22') 고: 예예. (はい)

(23) 김: 밥 솟디서 밥 흐민게 얼른 풀어질 거 아니우파.
 pap-sos-tise pap-h@-min-key ellun phwuleci-l ke ani-wukkwa.
 ご飯-窯-で ご飯-炊く-と-ね すぐ 解れる-[未来.連体] こと 違う-ですか
 밥 솟에서 밥 하면 말이죠 얼른 풀어질 거 아니겠습니까.
 「窯でご飯を炊くとすぐ解れるじゃありませんか。」

(23') 고: 예. (はい)

(24) 김: 거 반쪽으로 쪼개어 부난, 계난 그거
 ke panccok-ulo ccokay-e pwu-nan, keynan kuke
 あの 半分-に 割る-て しまう-たら つまり その
 거 반쪽으로 쪼개어 버렸으니, 그러니까 그거
 「あの半分に割ってしまったら、だからその」

(24') 고: 예. (はい)

(25) 김: 반쪽으로 쪼개영 파르르하게 퀘민,
 panccok-ulo ccokay-eng phalulu-h@-key kwey-min,
 半分-に 割る-て ぶくぶく-する-[副詞化] 湧き上がる-れば
 반쪽으로 쪼개서 파르르하게 끓으면,

「半分に割って(熱を通して一回) ぶくぶくと湧き上がれば、」

(26) 김: 이젠 연날 낭 ~불 사랑 밥 흐는다³
 iceyn yennal nang ~pwul sall-ang pap h@-nunti
 その 昔 木 火 熾す-て ご飯 炊く-けれど
 이제는 옛날 나무로 불 살라서 밥 하는데
 「その、昔は木で火を熾してご飯を炊くけれど」

(27) 김: 뚜껑 을앙 영 봐그넝에 {그} 보리쌀이
 ttwukkeng y@l-ang yeng pw-akuneyngey {ku} poli-ss@l-i
 蓋 開ける-て こう 見る-て 大麦-米-が
 뚜껑 열어서 이렇게 보고는 보리쌀이
 「蓋をあけてこう見て大麦が」

(28) 김: 흐끔 물이 매절매절흐면은 그때엔 또
 h@kkm mwul-i maycelmaycelh@-myen-un ku-ttay-yeyn tto
 少し 水-が 少なめだ-なら-は その-時-には また
 조금 물이 자작자작하며는 그뎌 또
 「少し水が少なめになってきたらその時にはまた」

(29) 김: 이제 좁쌀을 그 우터레 영 허끔데다.
 icy co-pss@l-ul ku wu-theley yeng hekku-pteyta.
 その 粟-米-を その 上-に こう 撒く-ていました
 이제 좁쌀을 그 위에 이렇게 쉬더군요.
 「その、粟をその上にこう撒いていました。」

(29')고:예예. (はい。)

(30) 김: 좁쌀 좁쌀을 그 우터레 영 흐 되~박
 co-pss@l co-pss@l-ul ku wu-theley yeng h@n toy~pak
 粟-米 粟-米-を その 上-に こう 一 升

³ ここでは正書法に従い'-디'としたが、音声的には'-디'なのか '-디'なのか定かではない。ここに音韻的な違いがあるのかについても未解決である。

않아. 저으면 밥 맛 없다고 맛 없다고

「しない。かき回すとご飯がまずい、まずいと」

(35')고:예. (はい。)

(36) 김: 흠데다게. 경 흥명 짓질 아녀.

h@-pteyta-key. kyeng h@meng ces-ci-l anye.

言う-ていました-よ そう 言う-て かき回す-[否定接続]-を しない. [終結]

하더군요. 그리 말하면서 짓지를 앓아.

「言っていましたね。そう言っかき回すことをしない。」

(37) 김: 경예 그 보리쌀 곶앙 경 먹지.

kyeng-yey ku poli-ss@l k@l-ang kyeng mek-ci.

そう-ね その 大麦-米 挽く-て そう 食べる-よ

그렇게 말이죠 그 보리쌀 갈아서 그렇게 먹지.

「しない。そうしてですね、その大麦を挽いてそうやって食べるよ。」

(37')고:예. (はい。)

(38) 김: 또 이제 그것 대거름체 헤여근예 이젠

tto icyey kukes tay-kelumchey hey-yekuney icyey-n

また その それ 大-篩 する-しては 今度-は

또 이제는 그것 대거름체로 쳐서는 이젠

「また、その、その大きい篩にかけては、今度は」

(39) 김: 대거름체 안 나옵니다게. 대거름체 흥영예

tay-kelumchey an nao-pnita-key. tay-kelumchey h@-yeng-yey

大-篩 [否定] 出る-ます-よ 大-篩 する-して-ね

대거름체 안 나옵니다(‘게’는 강조). 대거름체를 해서

「大きい篩、出てきませんよ。大きい篩にかけてね」

(40) 김: 치면은 그것이 스레기가 나와마씨. 그 쓸에

chi-myen-un kukes-i s@leyki-ka naw-a-massi. ku ss@l-ey

son-nim	tayceph@-nun	ke,	s@leyki-man	sis-eng
客-様	接待する-[連体]	もの	屑米-だけ	洗う-て
손님	대접하는	거,	짜라기만	씻어서

「お客様をもてなすもの、屑米だけを洗って」

(46) 김: 우리 먹는 거, 이추륙 햅엇수다게.
wuli mek-nun ke, ichwulwuk h@-yes-wuta-key.
私達 食べる-[連体] もの どのように する-[完了]-ます-ね
우리 먹는 것, 이처럼 했지요.
「私たちが食べるもの、このようにしたんです。」

(46') 고: 예예. (はい。)

(47) 김: 옛날 옛날 경 햅엇수게.
yeysnal yeysnal kyeng hay-sswukey.
昔 昔 そう する-ました
옛날 옛날 그렇게 했지요.
「昔、昔はそのようにしたんですよ。」

(48) 김: 이제는 예 경 햅엇당 큰일나주마는.
icey-nun yey kyeng h@-yes-tang khunilna-cwumanun.
今-は ですね そう する-[完了]-ては. [非過去] 大変なことだ-けれども
이제는 말이죠 그렇게 했다가는 큰일나지마는.
「今はですね、そのようにしては大変なことだけれども。」

(49) 김: 우리 그 살아온 세상을 생각햅든
wuli ku salao-n seysang-ul sayngkakh@-mun
私達 その 生きてくる-[過去.連体] 世-을 考える-れば
우리 그 살아온 세상을 생각하면
「私たちが、その、生きてきた世の中を考えれば」

(50) 김: 혼도 궂도 엇수다게.

h@n-to kkus-to es-swuta-key.
 限界-も 切り-も ない-です-ね
 한(한계)도 끝도 없지요(강조).
 「切りがありませんよ。」

(51)고: 겨난 그 왜정 말기엔 왜정 뎐,
 kyenan ku wayceng malki-ey-n wayceng ttay-n,
 だから その 倭政 末期-には 倭政 時-は
 그러니까 그 왜정 말기엔 왜정 뎐,
 「だから、その日本による植民地期の末期には、植民地時代は、」

(52)고: 보리쌀에 좁쌀.
 poli-ss@l- ey co-pss@l.
 大麦-米-に 粟-米
 보리쌀에 좁쌀.
 「大麦に粟。」

(53)김: 예. 보리쌀에 좁쌀. 보리쌀에 좁쌀 보리쌀에 좁쌀 해영
 yey. poli-ss@l- ey co-pss@l. poli-ss@l- ey co-pss@l. poli-ss@l- ey co-pss@l. hay-yeng
 はい 大麦-米-に 粟-米 大麦-米-に 粟-米 大麦-米-に 粟-米 する-て
 예. 보리쌀에 좁쌀 보리쌀에 좁쌀 보리쌀에 좁쌀 해서
 「はい。大麦に粟、大麦に粟を、大麦に粟を炊いて」

(54)김: 먹곡, 이젠 그 스레긴 또 치여그녕에 이젠
 mek-kok, icey-n ku s@leyki-n tto chi-yekuneyngey icey-n
 食べる-て 今度-は その 屑米-は また 蒸す-て 今度-は
 먹고, 이제 그 싸라기는 또 썬서 이젠
 「食べて、今度はその屑米はまた蒸して、今度は」

(55)김: 마루 이제 막 마는 체로 마루 치여두곡
 k@lwu icey mak k@nu-n cheylo k@lwu chiyetwu-kok

粉 もう すごく 細い-[連体] 篩-で 粉 かける-て
 가루 이제 아주 가는 체로 가루를 쳐두고
 「粉、そのとても細い篩で粉をかけておいて」

(56) 김: ㅎ영 그건 멋을 ㅎ느냐 ㅎ믄 호박^입
 h@-yeng kuke-n mes-ul h@-nunya h@-mun hopak-^ip
 する-て それ-は 何-を する-のか と言う-と カボチャ-葉
 해서 그건 무엇을 하느냐 하면 호박잎
 「そうしてそれは何をするのかと言うと、カボチャの葉っぱ」

(57) 김: 툇앙예, 그뎨 하도나 너미나 어신 때난예
 th@t-ang-yey, ku-ttay-n hatona nemina esi-n ttay-nan-yey
 摘む-て-ね その-時-は とても とても ない-[過去.連体] 時-ので-ね
 뜯어다 말이쥌, 그뎨 너무도 너무나 없던 때니까
 「積んできてね、その時はあまりにも(何も)なかった時代なので」

(58) 김: (흥) 호박 호박^입 툇아당 그거 이젠 박박
 (hong) hopak hopak-^ip th@t-atang kuke icey-n papak
 (か)カボチャ カボチャ-葉 摘む-ては それ 今度-は ばりばりと
 (흥) 호박 호박잎 뜯어다가 그거 이제 박박
 「カボチャ、カボチャの葉っぱを摘んできてはそれを今度はばりばりと」

(59) 김: 무지려그넵에 깨끗하게 이젠 거품
 mwucily-e-kuneyngey kkaykkush@-key icey-n kephwul
 切り取る-て-て 綺麗だ-[副詞化] 今度-は 皮
 무지려서 깨끗하게 이젠 껍질
 「切り取って綺麗に、今度は皮を」

(60) 김: 베껴두곡 해영 무지렁 씻영
 peykkyetwu-kok hay-yeng mwucily-eng sis-eng
 剥がす-て する-て 切り取る-て 洗う-て

벗겨두고 한 다음에 무지려서 씻어서
 「剥がしておいた後、切り取って洗って」

(61) 김: 그거 낱으넝에 이젠 호박^입 낱
 kuke nw-ang-uneyngey icy-n hopak-^ip nw-ang
 それ 置く-て-て 今度-は 카보챤-葉 置く-て
 그걸 놓고서 이젠 호박잎 놓아서
 「それを置いて、今度はカボチャの葉っぱを置いて」

(62) 김: 바글바글 끄러가믄 그 즘쌀 난
 pakulpakul kkulyeka-mun ku c@m-ss@l nw-an
 ぐつぐつ 煮ていく-れば その 細かな大麦-米 置く-て. [過去]
 보글보글 끓여가면 그 잔보리쌀밥을 놓아서
 「ぐつぐつ煮て行けば、(次に) その細かな大麦ご飯を置いて」

(63) 김: 국을 끄련 먹엇수게.
 kwuk-ul kkuly-en mek-es-swukey.
 汁-을 煮る-て. [過去] 食べる-[完了]-ますね
 국을 끓여서 먹엇지요.
 「汁を煮て食べていましたね。」

(64) 고: 난 그 호박^입국 먹어난 먹어났수다.
 na-n ku hopak-^ip-kwuk mek-enan mek-enas-swuta.
 私-は その 카보챤-葉-汁 食べる-[経験]. [過去] 食べる-[経験]. [完了]-ます
 나는 그 호박잎국 먹은 적 먹엇었습니다.
 「私はそのカボチャの葉っぱのお汁を食べたこと(ある)、食べたことがあります。」

(64') 고: 예예. (はい.)

(65) 김: 경헛지, 예? 아 게난 그 호박^입
 kyengheys-ci, yey? a keynan ku hopak-^ip
 そうだ. [完了]-ね あ だから その 카보챤-葉

그랬지요? 아 그러니까 그 호박잎

「そうだったでしょう。あ、だから、そのカボチャの葉っぱ」

(65') 고: 예예. (はい。)

(66) 김: 경ᄃᆞ연 먹엇어마썸. 경ᄃᆞ난
kyeng-h@-yen mek-ese-massum. kyengh@-nan
そう-する-て. [過去] 食べる-[完了]-ます そうだ-から
그렇게 먹엇어요. 그러니까

「そのように食べましたね。だから」

(66') 고: 예. (はい。)

(67) 김: 옛날은 게 밥을 경 차례로 우리가
yeysnal-un key pap-ul kyeng ch@lyey-lo wuli-ka
昔-は ね ご飯-を そう 順番-として 私達-が
옛날은 말이죠 밥을 그렇게 차례로 우리가

「昔はですね、ご飯を、そのように順番通り私達が」

(68) 김: 차례 출런 살질 못 했수게.
ch@lyey ch@lly-en sal-ci-l mos hays-swukey.
順番 準備する-て. [過去] 暮らす-[否定接続]-을 [不可能] する. [完了]-ますね
차례 차려서 살지를 못 했지요.

「物事の順番に気を配りながら暮らすことはできませんでしたね。」

(69) 김: 옛날은 게 차례 출런 살아젓수과.
yeysnal-un key ch@lyey ch@lly-en sal-acy-es-swukwa.
昔-は ね 順番 準備する-て. [過去] 暮らす-[可能]- [完了]-ますか
옛날은 말이죠 차례 차려서 살 수 있었습니까.

「昔はですね、物事の順番に気を配りながら暮らすことなどできたでしょうか。」

(70) 김: 차례 못 출런. 계난 아이고 이거 윈,
ch@lyey mos ch@lly-en. keynan aiko ike wen,

順番 [不可能] 準備する-て.[過去] だから あ(嘆息) これ もう(嘆息)
 차례는 못 차렸어 그래서 아이고 이거 원,
 「順番なんか考えられない。だから、ああ、もうやってられない、」

(71) 김: 멘날 해밧자 이거 살아가는 게
 meynnal hay-pasca ike salaka-nun key
 毎日 する-たところで これ 生きて行く-[連体] ことが
 매일 해보았자 이거 살아가는 게
 「毎日やってみたところで、これ、生きて行くことが」

(72) 김: 이거로구나 허멍 흥여낫수다, 우리.
 ike-lokwuna he-meng h@-yenas-swuta, wuli.
 これ-だ나 する-ながら する-[経験].[完了]-ます 私達
 이것이로구나 하면서 했었습니다, 우리.
 「こんなことだな、と言いながら暮らしていました、私達。」

(73) 고: 식계 맹질 때는 어떻 흥여마씀?
 sikkey mayngcil ttay-nun etteng-h@-ye-massum?
 法事 節句 時-は どのように-する-[終結]-ます
 제사와 명절 때는 어떻게 합니까?
 「法事(祖先の供養)と節句の時はどのようにしていましたか。」

(74) 고: 무신거 먹읍네까?
 mwusinke mek-upneykka?
 どのようなもの 食べる-ますか
 어떤거 먹읍니까?
 「どんなものを食べますか。」

(75) 김: 제사홀 때엔 제사홀 때엔 또 거
 ceysah@-l ttay-yey-n ceysah@-l ttay-yey-n tto ke
 法事する-[未来.連体] 時-には 法事する-[未来.連体] 時-には また その

제사할 맨 제사할 맨 또 거
 「法事を執り行う時は、法事を執り行う時は、またその」

(76) 김: 방에 도구통 방에, 그 이제는 돌방에나 이시난
 pangey tokwuthong pangey, ku icy-nun tol-pangey-na isi-nan
 臼 臼 臼 その 以前-に-は 石-臼-でも ある-ので
 방아 절구통 방아, 그 이제는 돌방아라도 있어서
 「臼、その今は石臼があるので」
 (76') 고: 예. (はい。)

(77) 김: 좋았수다. 옛날은 거 이만흔 남방에 남방에
 coh-as-swuta. yeysnal-un ke imanh@n nam-pangey nam-pangey
 良い-[完了]-です 昔-は その これくらいの 木-臼 木-臼
 좋았습니다. 옛날은 거 이만한 나무방아 나무방아에
 「良かったです。昔は、その、これくらいの木の臼、木の臼に」
 (77') 고: 예. (はい。)

(78) 김: 해영으넝에, 집의서 쓸 흔 말쭙
 hay-yeng-uneyngey, cip-uyse ss@l h@n mal-ccwum
 する-て-ては 家-にて 米 一つ 升-ほど
 해서는, 집에서 쌀 한 말쭙
 「やっては、家で米一升ほどを」

(79) 김: 둥갓당 이게 그거 이젠 그거 백시멍
 t@ngk-as-tang ikey kuke icy-n kuke pp@si-meng
 浸す-[完了]-ては 이것이 その 今度-は その 搗く-れば
 담갔다가 이게 그거 이제는 그 뺏으면서
 「浸しておいて、これがその今度は、その、搗けば」

(80) 김: 진짜 시골방에가 세글리서마쭙. (겨 여 여)
 cincca sikolpangey-ka seykull-ese-massum. (kye ye ye)

本当に 三人用の臼-が 互いに呼吸が合わない-[完了].[終結]-ます (あああ)
 진짜 시콜방에가 서로 호흡이 맞지 않았어요 (겨 여 여)
 「本当に三人用の臼が(それを使う時に)互いに呼吸が合いませんでした。ああ。」

(81) 김: 팍 방에랑 팡팡 찌멍, 가시오름
 phak pangey-lang phangphang cci-meng, kasiolum
 ペットタンコ 臼-は ペットタンコペットタンコ 搗く-ながら カシオルム山
 팍 방아는 팡팡 째으면서, 가시오름의
 「ペットタンコ、臼をペットタンコペットタンコ搗きながら、カシオルム山の」

(82) 김: 강 당장 칩의 시콜방에 세글림떠라
 kang-tangcang chip-uy sikolpangey seykull-emptela
 칸-堂長 家-의 三人用の臼 互いに呼吸が合わない-[不完全].[過去回想]
 강 당장 칩의 시콜방에가 호흡이 맞지 않더라
 「칸堂長(書院の召使い)家の三人用の臼が(使う時)互いに呼吸が合わなかったね」

(83) 김: 흥멍 팡팡 그걸 서이서 그거
 h@-meng phangphang kuke-l se-ise kuke
 と言う-て 판판판 那-를 三人-で 那-
 하면서 팡팡 그걸 셋이서 그거
 「"と言いながら판판판那-를三人で那-を"

(83') 고: (웃음) (笑い)

(84) 김: 찌민예, 아이 진짜 웃겨마썸, 진짜로.
 cci-min-yey, ai cincca wusky-e-massum, cinccalo.
 搗く-れば-ね ああ 本当に 可笑しい-[終結]-です 本当に
 째으면 말이죠, 아이 진짜 웃겨요, 진짜로.
 「搗くとね、ああ、本当に可笑しいんですよ、本当に。」

(85) 고: 나도 물방엔 하영 햇수다마는,
 na-to m@lpangey-n haying hays-swuta-manun,

私-も 牛馬用の碾き臼-は たくさん する. [完了]-ます-けれど
 나도 연자방아는 많이 찼었습니다마는,
 「私も牛馬用の碾き臼はたくさん搗きましたけれども」

(86) 고: 집이서 ㅎ는 방엔 안 해밧수다.
 cip-ise h@-nun pangey-n an hay-pas-swuta.
 家-で する-[連体] 臼-は [否] する-みる. [完了]-ます
 집에서 하는 방아는 안 해밧습니다.
 「家で搗く臼はやてみたことはありません。」

(87) 고: 물방엔 강 췌 시꺼그네
 m@lpangey-n kyang swey sikk-ekuney
 牛馬用の碾き臼-は ただ 牛 載せる-て
 연자방아는 그냥 소등에 지우고서
 「牛馬用の碾き臼はただ牛の背中に載せて」

(88) 고: 췌한티 그, 이끄게 ㅎ영
 swey-hanthi ku, ikku-key-h@-yeng
 牛-に その 引く-[副詞化]-する-て
 소에게 그, 끌게 해서
 「牛にその、引かせて」

(89) 김: 이 집이서 며 ㅎ는 건예 거 무시거
 i cip-uyse me h@-nun ke-n-yey ke mwusi-ke
 この 家-で 何 する-[連体] もの-は-ね その 何-もの
 이 집에서 뭐 하는 건 말이췌 거 뭐
 「この、家で何かをするのはね、その何かを」

(90) 김: ㅎ엿수계계. ㅎ 말 두 말 ㅎ 건
 h@-yes-swukey-key. h@n mal twu mal h@-n ke-n
 する-[完了]-ます-ね 一つ 升 二つ 升 する-[過去. 連体] もの-は

했잖아요. 한 말 두 말 한 건
 「しましたね。一升、二升ほどの（量の）ものは」

(91) 김: 그 낭방에에 젓수다. 낭방에에 백산
 ku nang-pangey-ey cy-es-swuta. nam-pangey-ey pp@s-an
 その 木・臼・に 搗く・[完了]・ます 木・臼・に 搗く・て・[過去]
 그 나무절구에다 찼습니다. 나무절구에 빵아
 「その木の臼で搗きました。木の臼で搗いて」
 (91')고:예예. (はい。)
 (91'')고:예예예. (はい。)

(92) 김: 백사네에 그거 백산 그냥 지연 먹고,
 pp@s-an-eyyey kuke pp@s-an kunyang ci-yen mek-ko,
 搗く・て・[過去]・ね それ 搗く・て・[過去] そのまま 搗く・て・[過去] 食べる・て
 빵아서 말이죠 그거 빵아서 그냥 찼어서 먹고,
 「搗いてからね、それを搗いてそのまま搗いて食べて」

(93) 김: 그래도 고구마 갈앗당 고구마 해영예
 kulayto kokwuma kal-as-tang kokwuma hay-yeng-yey
 それでも サツマイモ 植える・[完了]・ては サツマイモ する・て・ね
 그래도 고구마 심었다가 고구마 캐서 말이죠
 「それでもサツマイモを植えては、サツマイモを掘ってね」

(94) 김: 그 떡에 섞엉, 흐린좁쌀떡을 마니
 ku ttek-ey sekk-eng, hulin-co-pss@l-ttek-ul mani
 その 餅・に 混ぜる・て 粘っこい・粟・米・餅・を たくさん
 그 떡에 섞어서, 차좁쌀떡을 많이
 「その餅に混ぜて、糯粟の餅をたくさん」
 (94')고:예예. (はい。)

(95) 김: 홉데다. 흐린좁쌀 아이고 이게예 벨콩 섞으곡

h@-pteyta.	hulin-co-pss@l	aiko	ikey-yey	peyl-khong	sekku-kok
する-ていました	粘っこい-粟-米	あ(感嘆)	これが-ね	色々な-豆	混ぜる-て
합디다.	차좁쌀	아이고	이게 말이죠	별콩	섞고

「作っていました。糯粟、ああ、これがね、色々な豆を混ぜて」

(96) 김: 뭇 ㅎ 것보단 그것이 맞셔마씀. 그것이
 mwes h@n kes-pota-n kukes-i massy-e-massum. kukes-i
 何 する-[過去.連体] 物-より-は それが 美味しい-[終結]-ます それが
 뭇 한 것보단 그것이 맛있어요. 그것이
 「何かしたものよりはそれが美味しいです。それが」

(97) 김: 좁쌀 섞으곡 다 고구마 섞으곡 ㅎ영
 co-pss@l sekku-kok ta kokwuma sekku-kok h@-yeng
 粟-米 混ぜる-て 全て サツマイモ 混ぜる-て する-て
 좁쌀 섞고 다 고구마 섞고 하여
 「粟米を混ぜてすべてサツマイモも混ぜて作って」

(98) 김: 떡 치민 얼마나 흐리틀이(?)⁴ 맛 좋은
 ttek chi-min elmana huli-thuli(?) mas coh-un
 餅 蒸す-れば どれほど 粘っこい-(?) 味 良い-[連体]
 떡을 찌면 얼마나 차진(?) 맛 좋은
 「餅を蒸すとどれほど粘っこい味がよい」

(99) 김: 중 알암쭈과?
 cwung al-amsswukwa?
 すべ 知る-[不完全]. ますか
 줄 아십니까?

⁴ 音声がはっきり聞き取れない部分であり、該当する語彙も特定できないため確かな書き起こしはできなかった。ただ済州方言の母語話者から、前後の文脈上「粘っこい」という意味に間違いないだろうとの意見をいただいた。

「のか知っていますか。」

- (100) 고: 거 범벅도 경헨 해나지 아녜수과?
ke pempek-to kyeng-heyn hay-na-ci any-es-swukwa?
その ごった煮-も そう-して.[過去] する-[経験]-[否定接続] [否定]-[完了]-ますか
거 범벅도 그렇게해서 했었지 않습니까?
「その、ごった煮もそうして作ったのではなかったですか。」

- (101) 김: 예. 범벅 했수게. 범벅 거 보리쌀
yey pempek hays-swukey. pempek ke poli-ss@l
はい ごった煮 する.[完了]-ますね ごった煮 その 大麦·米
예. 범벅 했지요. 범벅 거 보리쌀
「はい、ごった煮作りましたよ。ごった煮、その、大麦」
(101')고:예예, 범벅. (はい。ごった煮。)

- (102) 김: 콜아난 마루 그것두 내불지 아녀.
k@l-anan k@l-wu kukes-twu naypwul-ci anye.
挽く-[経験].[過去] 粉 それ-も 捨てる-[否定接続] しない.[終結]
갈았었던 가루 그것도 내버리지 않아.
「挽いた(出た)粉、それも捨てたりしない。」
(102')고:예예. (はい。)

- (103) 김: 그것두 내불지 아녕, 그걸로
kukes-twu naypwul-ci anih@ng, kukel-lo
それ-も 捨てる-[否定接続] 세즈 それ-で
그것도 내버리지 않고 그것으로
「それも捨てたりしない。それで」

- (104) 김: 범벅 흥연 먹엇수게게.
pempek-h@-yen mek-es-swukey-key.
ごった煮-する-ては 食べる-[完了]-ます-ね

범벅을 만들어서 먹었지요.
「ごった煮を作っては食べましたね。」

注

最初に本稿のインフォーマントの金様に感謝いたします。本稿は TIDA, Ko and Kim (2012) の発表資料として一部を提示した経緯がある。本稿の執筆に当たっては、コ・ヨンジン先生から草稿の段階から目を通していただき、済州方言の母語話者かつ言語学者としてのたくさんの貴重なコメントをいただいた。また千田俊太郎先生からは長年のフィールドワークの経験を持つ言語学者としての的確かつ示唆に富んだ多くのコメントをいただいた。記して二方に感謝いたします。ただし本稿にありうべき全ての誤りは執筆者の責任である。

参考文献

- (本文ではいちいち参照をしていないが、テキストの形態分析、意味の特定にあたり参考にした文献も挙げた。)
- 洪宗林(1991)『済州方言의 樣態와 相範疇 研究』博士論文, 成均館大学校(韓国).
- 玄平孝・姜榮峯(2011)『제주어 조사・어미 사전』, 済州大学校国語文化院.(ヒョン・ピョンヒョ, カン・ヨンボン(2011)『済州語助詞・語尾事典』)
- 제주발전연구원(2014)『제주어 표기법 해설 (제주발전연구원 제주학총서 13)』, 제주발전연구원 제주학연구센터 발행.(済州發展研究院(2014), 『済州語表記法の解説 (済州發展研究院済州学叢書 13)』, <http://archive.jst.re.kr/jejustudiesDBList.do?cid=01> よりダウンロードして参照した。)
- 제주특별자치도(2009)『개정증보 제주어사전』, 제주특별자치도.(済州特別自治道(2009), 『改正増補 済州語辞典』)
- 鄭承喆(2001)「제주 방언」『方言學事典』, 방언연구회 편, 태학사.(チョン・スンチョル(2001), 「済州方言」『方言学事典』, 方言研究会編)
- 김지홍(2001)「제주 방언 대우법 연구의 몇 가지 문제」『백록어문』 17:pp.7-35, 白鹿語文學會(済州大学校国語教育科).(キム・チホン(2001), 「済州方言の待遇法研究のいくつかの問題」『白鹿語文』 17:pp.7-35)

- 고영진(1991) 「제주도 방언의 회상법의 형태와 관련된 몇 가지 문제 -회상법의 형태소 정립을 위하여-」 『국어의 이해와 인식』 :pp.1009-1024, 갈음 김석득 교수 회갑기념논문집 간행위원회 편, 한국문화사(서울). (コ・ヨンジン(1991), 「濟州島方言の回想法の形態と関わるいくつかの問題-回想法の形態素の定立のために」 『国語の理解と認識』 :pp.1009-1024)
- 고영진(2002) 「제주도 방언의 상대높임법의 형태론」 『한글』 256:pp.7-43, 한글학회. (コ・ヨンジン(2002), 「濟州島方言の対者敬語法の形態論」 『ハングル』 256:pp.7-43)
- 고영진(2008) 「제주도 방언의 형태론적 상 범주의 체계화를 위하여」 『한글』 280: pp.101-128, 한글학회. (コ・ヨンジン(2008), 「濟州島方言の形態論的相範疇の体系化のために」 『ハングル』 280:pp.101-128)
- Martin, Samuel E. (1992) *A Reference Grammar of Korean*, Tuttle Publishing.
- 小倉進平(1924) 『南部朝鮮の方言』, 朝鮮史學會.
- 小倉進平(1944) 『朝鮮語方言の研究(上)(下)』 岩波書店(東京).
- 小倉進平 著・李珍昊 訳注(2009) 『한국어 방언 연구』 全南大学校出版部(韓国). (『朝鮮語方言の研究』)
- 朴用厚(1988) 『濟州方言研究 (考察編)』, 科學社.
- 송상조(2007) 『제주말 큰사전』, 한국문화사. (ソン・サンジヨ(2007), 『濟州語大辞典』)
- TIDA Syuntarô, Ko Young-Jin and Kim Sunmi (2012) Morphological system of tense aspect and modality in the Jeju dialect of Korean, The International Symposium on Contrastive and Descriptive Studies of Japanese and Korean Dialects 2012 With Special Focus on Jeju Dialect of Korean and Tense Aspect and Modality, Kyoto University, Kyoto .
2012年11月4日.

(きむそんみ、天理大学国際学部)